



そろそろノーベル賞の季節である。毎年10月に選考結果が発表され、アルフレッド・ノーベルの命日にあたる12月10日に授賞式が開かれる。平和賞はノルウェーで授賞式があるが、それ以外の賞はスウェーデン・ストックホルムのコンサートホールが会場となり、その後、市庁舎に移動して晩餐会が催されることになっている。

「ノーベル経済学賞」の受賞者も、そこに招待される。しかし、実は「ノーベ

### 「ノーベル経済学賞」の歴史—ミュールダールとハイエク—

生理学・医学、文学、平和賞にノーベルの名前を冠さないように求めている創設するように遺言し、1901年に実現したが、そこに経済学は入っていないかった。

「ノーベル経済学賞」は、正確には「アルフレッド・ノーベル記念経済科学スウェーデン銀行賞」という。スウェーデン銀行創立300周年を記念して1968年に創設された賞で、翌年から受賞者を選出してきた。物理学賞や化学賞と同じく、スウェーデン王立アカデミーが選考するが、ノーベルの遺産から賞金が支払われることはない。この事情から、日本では「ノーベル経済学賞」の賞金に対しては所得税が課される決

まりになっている。

「ノーベル経済学賞」は、賞賛だけでなく批判も浴びてきた。賞が創設されたとき、経済学者たちは科学としての経済学の確立に自信を深めただろう。だが、結局、経済学は人間社会の学問であり、自然科学と同じ意味での科学ではない。よく指摘されるのは、選ばれるべきだったのに落選した経済学者が存在し、自由主義、英米圏、数学への偏向が見られ、政治的に中立ではないということである。いまやノーベルの遺族が経

## いまこそ二人の

# 経済思想に学べ

しかし、ミュールダールはスウェーデンを母国にもつ福祉国家擁護論者であったのに対し、ハイエクはナチス・ドイツの興隆を間近に見たオーストリア人であり、福祉国家も全体主義国家と同じような「隷属への道」に至ると説いていた。当時、彼らの政治的イデオロギーは両極端にあるとみなされていたので、政治的に左右のバランスがとられる共同受賞だという憶測を呼んだのである。

名古屋立大学大学院  
経済学研究科准教授  
藤田 菜々子



「ノーベル経済学賞」はノーベル賞ではない。ダイナマイトの発明で莫大な資産を築いたノーベルは、物理学、化学、

筆者はミュールダールの研究者だが、近年、この二人の経済思想の接合について考えるようになった。経済・福祉・自由など、現代の重大かつ根本的な問題に関して、どちらの思想も参考に値するからである。いまこそミュールダールとハイエクに学べ。異なる意見はそれぞれに言い分があることが多い。広く知り、思考を続けたいものである。

さて、今年ほどのような受賞者が現れるのだろうか。

ふじた ななこ 経済学史・制度経済学。名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、博士(経済学)。1977年生まれ。

